

天才アート KYOTO



天才アートとは、障碍
のある人の多くがもつ
優れた感性と表現力、
そこから湧き出る独

創的なアート作品に対して、特定非営
利活動法人 障害者芸術推進研究機構
(天才アート KYOTO) が独自にネーミ
ングしたものです。当機構は天才ア
ートを推進し、その啓発・普及活動を積
極的に行っています。

会 報
No. 19

天才アート

発行日 2019年2月25日 (月)

発行者 特定非営利活動法人
障害者芸術推進研究機構

天才アート KYOTO

発行所 〒605-0811
京都市東山区大和大路四条下る
4丁目小松町 四条・新道アトリエ
info@tensai-art.kyoto
http://tensai-art.kyoto

編 集 株式会社 三六六



「微生物II」 大場 多知子 Tachiko Ooba アートボード・アクリルガッシュ 515×725mm 2018年

展 覧 会

報 告

京都・パリ友情盟約締結60周年記念
展覧会

オープニングセレモニーのテープカット（左から出口
一行京都府障害保健推進室長、松坂浩史文化庁
地域文化創生本部事務局長、青木賀代子京都府保
健福祉部副部長



多くの来場者でにぎわう会場



5人の作家が参加したライブペインティング



活発に意見が交わされたトークイベント

2018年、京都市とパリ市が友情盟約を締結をして60周年を迎えました。これを記念して両市でさまざまな行事が開催されましたが、京都市でもその一環として『京都・パリ友情盟約締結60周年記念展覧会』『描き、紡ぎ、絆ぐ』が企画され、当機構がその企画運営を受託しました。同展は、中京区河原町三条の京都造形大学のARTZ ONEを会場に、9月28日（金）～10月14日（日）の会期で開催しました。

また、10月5日（金）には、ゼスト御池イベント広場において、京都国際映画祭連携イベントとして吉本興業所属タレントと当機構所属作家とのライブペインティングが開催されました。さらに10月13日（土）にはトークイベントとして、フランス側作品の出版協力をいただいたEgait（エガール）協会の支配人であるマリ・ジロー氏を招いて「描く日常を社会へ開く／福祉と芸術の懸け橋として」と題し、障碍のある人の創作に迫る討論を行いました。そして、今回の展覧会を契機として京都・パリの作品交流の継続が提案されるなど、今後につながる取り組みとなりました。

17日間の会期中1、119人の来場者を数えるとともに、NHKニュースや新聞報道に取り上げられるなど大きな反響がありました。

ました。

なお、本展開催にあたっては企画委員会を立ち上げ、京都市担当課とともに甲南大学文学部の服部正氏、京都造形芸術大学アートプロデュース学科の山下里加氏・林田新氏の企画協力によりスムーズに進行することができました。ここに紙面を借りて感謝申し上げます。

会期：2018年9月28日（金）～10月14日（日）

11時～20時 休館日なし

会場：ARTZONE / MEDIA SHOP Gallery

京都市中京区河原町三条下ル一筋目東

入VOXビル1・2F

主催：京都市

後援：京都府

協力：文化庁地域文化創生本部、きょうと障

害者文化芸術推進機構

企画：特定非営利活動法人 障碍者芸術推進研

究機構

共同企画：京都造形芸術大学アートプロデュ

ス学科

あきおとあつし 2人展を開催

当機構所属作家の土屋彰男さんと楠川敦士さんが、2018年9月26日（水）～10月2日（火）の会期で、「あきおとあつし 2人展」を開催されました。会場は、四条通祇園町南側にある京つけもの西利4階の「西利ぎやらしい」。

展示作品は、豊かな色彩と独特の構成で描かれた絵画作品を中心に書や版画、陶器などバラエティー豊かで、会場を鮮やかに彩っていました。

会場が四条通祇園ということからたくさんの方の来場者がありましたが、一般客だけではなく観光客が多いのが特徴で、販売されていたポストカードやクリアファイルも記念品やお土産として買い求める方が多かったようです。

当機構では、今後もこのような所属作家の作品展をサポートしていきます。



「あきおとあつし 2人展」の様子

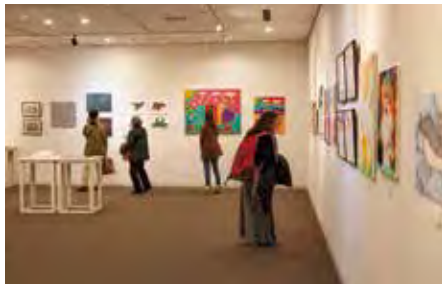
「天才アートKYOTO展 2018」成功裏に終了

2012年より毎年、中京区の堀川御池ギャラリーにて開催している『天才アート展』を、2018年11月16日（金）～12月2日（日）の会期で開催しました。

第7回目となる本展は、京都でアート制作に取り組む障害者福祉施設所属の作家や個人で活動する作家の協賛・協力を得て、56名の作家の絵画作品210点と立体作品3群（粘土作品50点・紙作品4点）を3室に分けて展示しました。

本展でも、例年どおり新しい作家13名の作品を紹介・展示しました。これまでと同様に全く新しいタッチ・作風の作品があり、会場アンケートから来場者に新たな感動と印象を与えたことがうかがえました。

また会期中の11月23日（金・祝）には、精神科医で障害者のアート活動にも造詣の深い石坂好樹氏を講師に迎えて、「サヴァンな人たち、その芸術表現。」のテーマで



天才アート KYOTO の作品が中心の展示室 B



京都でアート制作に取り組む障害者福祉施設の作品が並ぶ展示室 C



新たな視点で論議したギャラリートーク

ギャラリートークを開催。新たな視点で作品や制作過程の特長を論議するなど、有意義な展覧会・取り組みとなりました。

展覧会の共催、後援、助成と協賛・協力をいただきました関係機関・団体、関係者の皆さまに厚く感謝申し上げます。

展覧会実績…会期15日間で来場者数1,140

人／アンケート回答者数76人

メディア報道…NHKニュース、京都新聞

主催…NPO法人障害者芸術推進研究機構

共催…京都市・京都市教育委員会

後援…京都新聞社会福祉事業団・京都市立総合支援学校長会

協賛…洛和会ヘルスケアシステム

助成…京都府地域アート展支援事業・京遊連

社会福祉基金

協力…文化庁地域文化創生本部・大谷大学

PEAK FACTORY Media Works

出展…アトリエとも・京都市洛西ふれあいの

里授産園・障害者支援施設DO・天才

アートKYOTO・衣笠泰介・高田美貴

アートKYOTO・衣笠泰介・高田美貴

京都精華大学とコラボ展示

2018年11月14日（水）～24日（土）、

京都精華大学ギャラリーフロールにて「共生社会の実現に向けて二歩目を踏み出す展覧会」が開催されました。この展覧会は、

一昨年に続き2回目の開催で、障害のある人となない人の作品を交互に展示することによって、共生社会の大切さを訴え、小さな

二歩目を踏み出すことを表しています。

同展は、京都精華大学北波研究室の主催、

天才アートKYOTO・京都市明德小学校

の共催、京都市教育委員会の後援。会場に

は、学生や教職員をはじめ、多くの市民や

関係者の姿が見かけられました。

「公共空間にアートの彩り！」展開催

『天才アートがやってきた！』公共空間にアートの彩り！展を、昨年の2月～3月の京都駅新幹線下自由通路に続き、京都



共生社会の実現に向けて二歩目を踏み出す展覧会



四条通公共地下通路でのポスター展示

で最も著名な繁華街である「四条通」の公共地下通路にて、'18年11月7日（水）～'19年1月27日（日）の会期で開催しました。

この展示は、天才アートKYOTOが所蔵する作品アーカイブデータをB1サイズズの「アートポスター」にパネル加工し、

無機質になりがちな公共地下道などの壁面を飾り、「街中にアートの彩り！」を与え、市民や観

光客の目を楽しませ和んでもらい、合わせて障害のある人のアートの世界を広く知ってもらう趣旨で実施しています。

今回は、四条地下通路の中央支柱列（約4m間隔）のうち、魅屋町通～御幸町間の約100mにある26本の支柱の南北両面に作品ポスターパネル50枚と説明パネル2枚を展示。

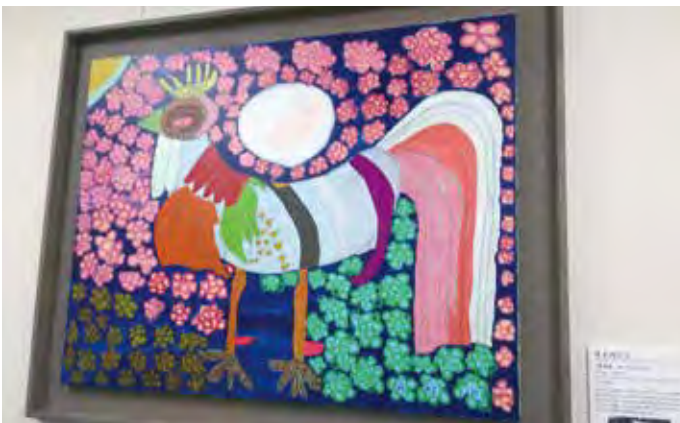
会期中に展示を見た関係者から、新たな展示依頼の問い合わせも届いています。これまで制作したポスターパネルは60点以上あり、今後も要請があれば展示協力していく予定です（問い合わせは、HP: info@tensai-art.kyoto）。

'19年3月5日（火）～11日（月）『天才アートがやってきた!! 展 東山』中止のお知らせ

会報18号の2頁で予告しておりました標記展覧会は、誠に勝手ながら諸般の事情により中止いたします。楽しみにしておられた皆様方には本当に申し訳ありませんが、ご理解のほどよろしくお願い致します。



写真左：松坂浩史文化庁地域文化創生本部事務局長（後列左）と土屋彰男さん
写真右：土屋彰男「オナガドリ」キャンパス・アクリルガッシュ／H910×W1,167mm



トピックス

レポート

文化庁地域文化創生本部 長官室に作品展示

京都市東山区に文化庁地域文化創生本部が設置された2017年の7月より、同本部長官室に、当機構所属作家の作品を展示提供しています。1年が経過した昨年7月に作品を入れ替えました。

新しい作品は、土屋彰男「オナガドリ」と富田晃生「ロゴアート」です。両作品とも、額を入れるとタテ・ヨコとも1メートルを超える大型作品です。

長官室を訪れる来客者が作品を見て、必ず「作者について」ご質問されるとのことから、広報の大きな活動のひとつとなっています。



富田晃生さん（前列右）と作品「ロゴアート」9点 商品の空箱・セロハンテープ／最大H195×W486mm～最小H98×W181mm

公益財団法人京遊連社会 福祉基金様から助成金

「天才アート展2018」の開催に当たり、（公財）京遊連社会福祉基金様より助成金を頂戴いたしました。2018年11月29日（木）、平成30年度助成事業（寄付・助成金）の贈呈式がANAクラウンプラザホテル京都で開催され、高島理事長が助成金を受け取りました。

当機構の活動への深いご理解とご厚情に心より感謝申し上げます。



助成金を受け取る高島理事長



寄付・助成金の贈呈式（京遊連社会福祉基金Webサイトより）

機関誌や広報物などに 作品が採用される

当機構所属作家の作品が、機関誌の表紙や広報物などに採用されるケースが増えていきます。

公益財団法人世界人権問題研究センター発行の「GLOBE」は、季刊で年4回、本年度で2年目の採用となります。また、公益社団法人日本フィランソピー協会発行の「Philanthropy」誌の8月号表紙や、花園大学同窓会宮城県支部公開講演会のチラシにも採用されました。いずれも商用ではなく、公共性の高い印刷物で、使用料は格安ですが、広報活動の一環として、今後も積極的に対応していく予定です。



右から（公財）世界人権問題研究センター発行の「GLOBE」、（公社）日本フィランソピー協会発行の「Philanthropy」、「花園大学同窓会宮城県支部」の公開講座チラシ



「マウス タテウス」 画用紙・サインペン・カラー筆ペン 298×420mm
2018 年

根ヶ山 恵司

根ヶ山 恵司 Keishi NEGAYAMA
1996年生

根ヶ山は、ひとつのモチーフ（それは、犬、昆虫、恐竜、魚、メカロボットと多様だが）を必ず姿態や意匠をさまざまに変化させて、「シリーズ」のように連作することが多い。作品は、その色調や意匠の変化と連続性が、観る者になぜか安心感とワクワク感のようなものを与える。

TENSAI
ART
NOTE

天 オ
ア ア
ー ト
ノ ー ト



「マウス キャンサー」 画用紙・サインペン・カラー筆ペン 298×420mm
2018 年

上田 彩 Aya UEDA 1989年生

上田は、家庭や通所する施設などでの季節の行事やレクリエーションをテーマに描き続けて15年近く、作品は200点近くになる。画面の中には必ず自分と近い人を描くが、時々大好きなパンダやほかの動物に変身することもある。そのタッチは一目で「上田彩」流と判るほど確立している。

上田 彩



「天皇賞」 画用紙・サインペン・色鉛筆 270×380mm 2018 年

石田 百恵 Momoe ISHIDA 2002年生

石田は、小学生の時、東京ディズニーランドで夕刻に催行されるマジカル・パレードを見てから、これをテーマに描き始めた。それから5年、黒の色画用紙にボスカを使ってアウトラインやLEDで輝くデコレーションを鮮やかに点描した後、水彩で着色する制作スタイルも一貫していて、その作風は10代半ばにしてすでに確立している感がある。

石田 百恵



「新年会」 画用紙・サインペン・色鉛筆 270×380mm 2018 年



「アリスとねこのパレード」 色画用紙・アクリルガッシュ 390×545mm 2018 年



「しらゆきひめのパレード」 色画用紙・色鉛筆・アクリルガッシュ 390×545mm
2018 年

寄稿

親子の遊びの中から生まれた切り絵
—制作は人との大切なコミュニケーション—

小寺明子



●姉の教材に興味を示す

娘、小寺菜月は現在25歳です。2歳半上の姉との2人姉妹です。

生まれてからは、姉とは対照的に、たつぷりとミルクを飲み、ぐっすり寝てぐずることのないとても楽な子でした。ところが、生後8カ月の検診でその「楽さ」こそが問題でした。寝返りもしない、手はいつもグーにしている、パーにできない、お座りもできないままで、再度その1カ月後の検診により精密検査を受けることになりました。

その結果、脳のCTで脳の前方の左右に隙間が見つかり「知能面・運動面に影響する部分なので遅れが生じると思います」と告げられました（脳の隙間は3歳児の時、再検査では正常になっていました）。

それから2週間ごとに京都市児童福祉センターの小児科に通うことになりました。1歳3カ月でハイハイができ、1歳9カ月でやっと立つことができました。そこから

少しずつ歩くことができるようになってきました。

3歳前から、母子通園施設に通い療育というものを受けました。施設の先生には、手足はもちろん体全体に筋肉が無いと指摘を受けました。ぶよぶよしていて、座つても背中がだらんと曲がり、バランスが悪い状態と説明を受けました。体も弱くしょっちゅう発熱し、1週間頑張つて通園できたと喜んだら、翌週にまた熱が出て1週間休む、の繰り返しでした。言葉も遊びも、他の子どもさんと比べると全然足りない、言葉かけをもっともつとして、誘つていくてくださいと言われました。それでも、全然興味を示しませんでした。

通所に電車を使っていたせいか鉄道だけは興味を持ちはじめ、電車の絵本を何冊も買い、とても器用に片手でページを滑らせ、本をめくる姿には驚きました。なぐり書きも多少するようになってきました。

姉が幼稚園に上がり、B社の幼児向けの教材をとるようになると、今まであまり何事にも興味を示さなかった菜月に大きな変化が訪れます。教材のビデオにとっても関心を示し、一日中何度も何度も見ていました。色の名前や形の名前に興味を持ち覚えていきました。パズルの付録、シールの付録などにも興味を示し、手に取ってはめ込もう

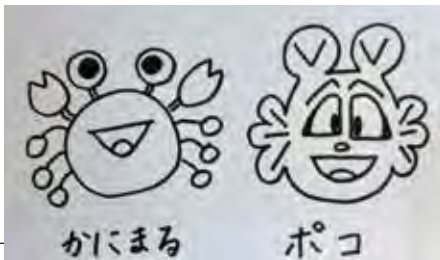
とする仕草が見られました。また、洗濯ばさみが好きで、私が物干しに向かうとついてきて、カラフルな洗濯ばさみを自分の前に並べて色への興味を示したり、ブロックや粘土遊びにも関心を持ち始めました。この頃、言葉の方は一語文しか話せませんでした。

●新たなキャラクターとの出会い

姉が小学校に入学するのに伴い、ビデオのキャラクターも変わりました。この時の新たなキャラクターとの出会いが、後に菜月の切り絵に繋がることになるとは夢にも思いませんでした。

小学生を対象にした新たな教材の中に「かにまる」とぼんぼこタヌキの「ポコ」が登場します。ビデオの中にはそのキャラクターの「お絵かき歌」がありました。菜月はこれを見ながら何度も何度も、私にこの絵を描いてほしいと要求しました。毎日毎日、ねだられて同じ絵を描いていましたが、ある日ふと、「このカニとポコを色紙で切ってみたら

どんな反応を示すかな？」と思いつきました。3色の色紙を重ねてまとめて切り、3色のポコが出てきた時にはとても輝いた眼で見えてくれました。お話ししながら、切つたものに顔を描いてみた



生の時、担任の先生から「お母さん、今日初めてなつちゃん（人）の形らしきものを描きました！」と、すぐその日に写真

りしていろいろ遊びました。ここから、毎日色紙を切つてほしいという要求が始まります。

私の家事が一段落するのを見計らい、座つた瞬間、すぐにハサミと色紙を持ってきた差し出すのでした。

それは幼稚園の頃から小学校の4年生まで続きました。この間、菜月に「一緒に切ろう」と、たびたび声をかけて誘いましたが、いつも熱心に見ているだけで、自分で切ることはありませんでした。

話は少し戻ります。幼稚園の頃は、なぐり書きの絵の他に「なつき」と自分の名前だけ書けるようになりました。

平成12年春、京都市立西養護学校（現・京都市立西総合支援学校）に入学します。学校では、トランポリン、インラインスケート、自転車など、新たなチャレンジの中で、体感を鍛えていただきました。そして、水性ペンで丸い顔を、色を変えて一枚の紙に何個か描くようになりました。小学部2年



で見せてくださり、その時のことは今でもはつきりと覚えています。弱い線ですが顔も手も足もありました。そこからどんな絵を描くことに興味が湧いてきます。主に女の子の絵をたくさん描きました。こだわりがあり女の子の絵は赤いペンで描いていましたが、その女の子は、自分自身だったようです。毎日らくがき帳一冊を描き尽くす勢いで没頭していました。絵にも変化がみられる中で小学4年生まで描き続けました。同時に私にカニとポコを切る要求も続いていた。

●「カニ」を切ったのは突然の出来事

平成16年4月、養護学校の総合制実施に伴い、京都市立呉竹総合養護学校（平成19年学校教育法改正により京都市立呉竹総合支援学校と変更）に転校することになりました。この時から毎日描いていた、女の子の絵を全く描かなくなっていました。紙に向かっても黒く塗りつぶすだけだったり、気力の無さを感じました。学校になじんでくると興味は新たに教えていただいた「カタカナ」に向き、毎日、毎日カタカナ

を練習し、自分で大きな花丸を描く様子が見られるようになりました。そのうち、ある日突然ハサミで「カニ」を切りました。今まで自分で切ったことはなかったのに、フリーハンドでいつも私が切っているカニでした。

中学部に入る頃には、カニ・ポコ以外にネコやウサギなど切りたい形を切るようになっていました。中学3年の学習発表会では、舞台の上で「とつとこハム太郎」のキャラクターのトンガリ君を切って、出来上がったものを台紙に貼り、客席の皆さまに見ていただくことができました。

高等部では、2年生の時から紙加工班になり、牛乳パックを切る担当になりました。あれほど筋力がなかった子でしたが、固い牛乳パックをサクサクと切っていました。手に力がついてきていました。金曜日の午後は「アトリエ金ゴゴ」という好きな制作活動の授業でした。

当時は白い紙を切ったり、自分で色を塗った画用紙を使い、生き物や野菜などの形を切っていました。学校以外の場所にも



展示していただく機会がありました。

展示会に連れて行くと、自分の作品がここにあるという喜びを感じている様子が見受けられました。

●「天才アート」に参加して

在学中に「天才アート」のアトリエ会のお話を聞き、卒業後の不安も強くあったので、ぜひ参加させていただきたいという気持ちになりました。

「天才アート」のアトリエ会に参加させていただき、今は、主に切り絵に取り組んでいます。私が以前からいつも紙を半分に折って、カニやポコを切っていたためか、菜月も紙を半分に折り切っていました。自分の頭にイメージした動物・魚・鳥・花：などが一つの切り抜き作品の中に入っているようです。また、最近かわいい鳩や動物などのイラストも描くことが増えてきました。シャープな切り絵とは対照的なほのぼのとしたものです。

いつもアトリエでは、笑顔で穏やかです。先生方や保護者の方にお声かけいただくのがうれしいのだと思います。家では「すごいものを切って先生に見せるの!」と言い、意欲的に取り組んでいます。作品展も毎年楽しみにしており、展示されている自分の



作品を見ること、見ていただけることが励みとなっています。そういうことが更なる意欲に繋がるようです。

菜月は自閉症スペクトラムです。重度精神遅滞も伴っています。人とのコミュニケーションや会話が難しく、自分の思いをうまく言葉にして伝えられません。25年育ててきた今日でも理解に苦しむ毎日です。音や視覚に過敏なので、こちらが気づけていないうちに不安定になったり、パニックになり大声を出したり、こだわりも強く、また日々変化もみられます。

今、菜月が穏やかな表情や意欲的な表情をみせ、一息持ちが集中できるのは、制作活動に夢中で取り組んでいる時にほかなりません。

あの時、「かにまるとポコ」のキャラクターに会っていないかったら、今、菜月は切り絵をしていたのだろうか?と、ふと思えます。

企業とのコラボレーション、作品アーカイブ活用と販売

昨年の春から、セブン・イレブン京滋支社と京都市観光協会との提携・協力により、天才アートのミュージアムグッズの店頭販売をしています。

販売店舗は、セブン・イレブンが市内中心部の烏丸六角店、京都阪急大宮店、京都七条大宮店、阪急西院駅南店、四条堀川店、京都市観光協会が二条城内観光売店です。

取扱商品は、ふろしき「風」とスポンジクロス「舞妓・能面・赤富士・風神・雷神」です。定価はいずれも千円（税別）で、観光客を中心にたくさん購入いただくなど好評です。

これらの製品は、作品アーカイブを活用して、ふろしきは山田繊維株式会社様（中京区）、スポンジクロスは合同会社京都職人プロジェクト様とのコラボで実現した商品です。

また、伝統工芸品である京ろうそくの老舗（有）中村ローソクさんとのコラボでは、作家がオリジナルの絵付けをしたものと、アーカイブを絵付け師さんが写したものを商品化しました。こちらは、中村ローソクさんの店頭とイベント店頭での販売となっています。



セブン・イレブンの専用棚



ローソクの絵付け商品

ますます充実する複製画の販売とレンタル

2016年6月からスタートした複製画は、販売とレンタル方式の二本立てで提供しています。

複製は高精細ジークレー印刷で、高級の用紙を使い、一枚一枚丁寧に原画に忠実に再現しています。ひとつの作品の複製枚数は10枚限定制作で、売り切れると新しい作品を追加していきます。額サイズは、三三、半切、四つ切、太子の4サイズを用意しています。

レンタルは、病院やホテル、公共施設のロビー、企業の会議室や応接室などを対象に、社会貢献活動の一環として採用していただくことを目的にしています。すでに洛和会音羽病院様（山科区）、SCREEN HD様（上京区）に採用していただき、2年契約で1年ごとに作品を入れ替え、好評を得ています。レンタルで複製画を展示したいという要望がありましたら、ホームページからお申し込みいただくか、スタッフにお声がけください。作品点数や期間など、ご相談に応じます。

会員・寄付を募集しています

天才アートKYOTOは、当機構の趣旨や活動に賛同していただける会員を募集中です。会員は「正会員・賛助会員・名誉会員」の3種類。また、寄付金や助成金、「障害者アートミュージアムKYOTO設立支援基金」などのお申し込みも随時受け付けて

います。詳しくはホームページに掲載していますので、ご協力をよろしくお願い致します。
<http://tensai-art-kyoto>

〔編集後記〕

天才アートKYOTOがNPO法人としてスタートして9期目に入りました。いよいよ来期で10年地道な活動であっても続けていくことで、徐々に一般の方に知っていただける機会が多くなりました。

その間、全国的に障害者アートそのものの知名度も向上し、各地で作品制作に取り組んでおられる障害者福祉施設や組織団体が増えてきています。これからは、創作するだけでなく、その管理や流通マーケットなども考えていく必要があります。海外では、一般のアートマーケットと同じように、障害者が制作した作品であっても、それなりの価値評価がなされ、マーケットが形成されています。日本も早くそうなってほしいと望んでいます。

【表紙の作品について】

大場多知子は、日常生活の中で見た事物、植物、動物、自然現象などなど、その中で「感動した。美しいと思った。印象に残った」ことを「描いてみたい」という衝動が作品となって結実している。描くことでひきこもり状態から「自分」を取り戻したという。



「微生物II」 大場 多知子 Tachiko Ooba
アートボード・アクリルガッシュ 515x725mm 2018年

広告主募集中！

『会報 天才アート』は、当機構の活動にご賛同いただける企業様や団体・組織の広告協賛を募集しています。会報の発行部数は毎月3,500部で、会員・協賛団体関係機関、各地の美術館などに配布・配架をしています。ご協力を、ぜひともよろしくお願い致します。
1枠…1万円（4回掲載）
●お問い合わせ・お申し込みは、
info@tensai-art-kyotoまで

画材・額縁
画箋堂
京都・河原町五条

京都上鳥羽
の
印刷会社

MORI
(有) 森田美術印刷

京都市南区上鳥羽火打形町12 ☎ 075-692-3131

妙心寺 塔頭

養徳院

永代供養のお寺 075-461-2898



吉村建設工業 (株)

京都市中京区西ノ京小倉町135番地
075-802-1360

発展、ともに前へ…
洛和会ヘルスケアシステム®
洛和会丸太町病院 洛和会音羽病院 洛和会音羽記念病院
洛和会音羽リハビリテーション病院 洛和会東寺南病院

Kuretake